編　修　趣　意　書

（教育基本法との対照表）

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-68	中学校	外国語	英語	第３学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
２ 東書	英語002-92	NEW HORIZON English Course 3		

Over the NEW HORIZON

１ 編修の基本方針

GIGAスクール構想対応

英語でつながる心豊かな体験を、みんなで

この教科書は、日本で英語を学ぶ全ての生徒たちが、生涯を通して国際社会で心豊かに暮らすために必要な学びを編修しています。「中学生」の発達段階に十分に配慮しつつ、英語を使って「自分の言葉」で他者とコミュニケーションできる喜びを実感してもらうことを最重要視しました。特に留意したのは次の２点です。

●英語という言語を通じて、他者とつながる素晴らしい「体験」をたくさん積み上げること

●その活動を通して身につけた技能で、積極的に世界とつながろうとする「心」を育てること

その実現に向けて、誰もが学びたくなる楽しい仕掛けを紙面とデジタル教材に多数用意しています。

３年生のテーマ　英語を使って共に生きよう！

中学生に関心の高い話題を切り口に、「地球市民」としてどう生きたいかを問いかける教科書です。

特色 1

中高接続重視の教科書

学びの「のりしろ」

特色 2

単元末活動重視の教科書

学びの地図

特色 3

ダイバーシティ重視の教科書

学びの多様性

Book３で、中学生たちは次のように学ぶことができます。

特色1　中高接続重視の教科書

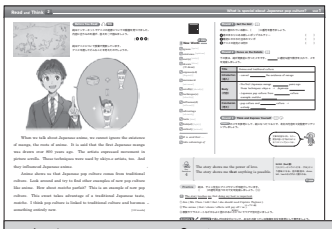
GIGAスクール構想に対応して、中学生たちが英語学習の必須アイテムだと思えるような、新たなデジタルコンテンツと学びのメソッドを取り入れました。

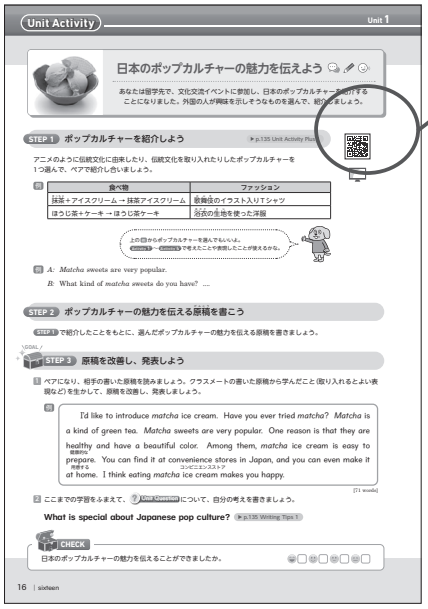
Book３は、一人の生徒がその人生の中で、小学校から引き継いだ英語の学びを中学校３年間の集大成とし、高校生・大学生・社会人になっても引き続き、英語でつながる心豊かな体験を積み上げていくことを願って編修された一冊です。教科書から生徒に投げかける「問い」は、時に難しいものもあるでしょう。しかし、クラスメートやALTまたは英語の先生と共に考えたり、話し合ったりする協働の時間で、他者の生き方や考え方に英語で触れることによって中学３年生としてふさわしい成長を遂げるでしょう。生徒は「自分ごと」としてSDGsの実現をめざし、自ら世界に深く関わるwell-beingの人生を歩み始めます。こうした生徒像を掲げながら、Book 3では、特に「中高接続」を大切にしています。

1　Unitの単元末活動の作品をActivity Sheetに書いて提出

日本文化、エシカルファッション、動物保護、助け合い・防災、人権・平和、国際協力。どれも私たち地球市民にとって、大切なテーマです。生徒はデジタルコンテンツとして搭載された思考ツールで自分の考えを整理し、Activity Sheetにまとめ、画像として保存し、その作品を教員に授業支援ツール等を通じて提出することができます。

紙 Unit 1（pp.9〜16）



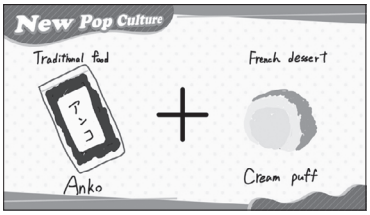


デジタル

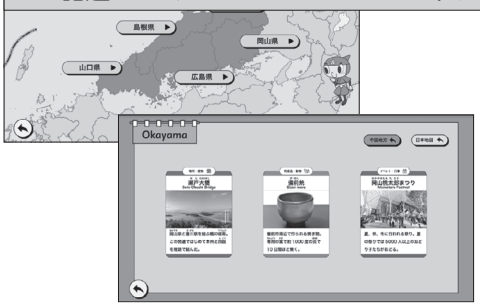
Unit Activityのコードからコンテンツを呼び出す際の入り口画面

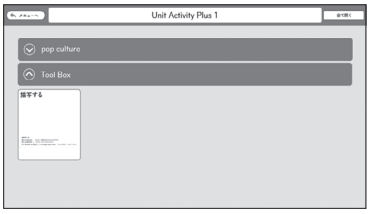
思考ツールの画面例

Activity Sheet活用例



デジタルマップ（第２学年編修趣意書p.2参照）と組み合わせて豊かに話題をふくらませることもできます。





Unit Activity Plus 1（教科書紙面p.135）をデジタルで活用する際の入り口画面

2　デジタル用例辞典の検索機能からヒントを得て、自分の「せりふ」を作る

デジタル用例辞典は、コードを読み取って目的・場面・状況に応じた「こんなときどう言うの？」という生徒の疑問に応えるコンテンツです。用例は全て教科書本文からできているので、生徒は教科書本文を再活用しながら自分の伝えたいことを表現する方法を身につけます。学習指導要領に示された言語の機能別に検索をかけることもできます。

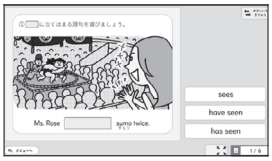
デジタル用例辞典はUnit Activityのページのコードなどから呼び出せます。

3 文法解説動画やDクイズ、デジタル資料集で語彙力・文法力をつける

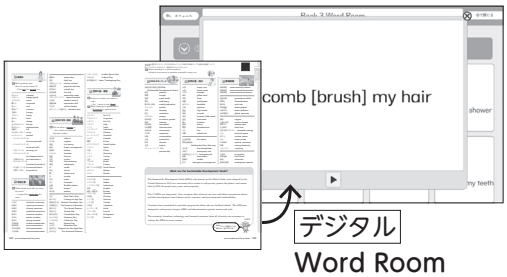
Word Roomなどの全学年共通のデジタル資料集は、Book 3の紙面の内容だけでなく、Book 1・2に掲載されているものも全て見ることができます。全学年分参照できるので、学年の壁を越えて豊かに言語活動ができます。

デジタル 文法解説動画

デジタル 文法クイズ



Dクイズ ※単語クイズもあります。



デジタル Word Room

生徒は自己調整の学びとして、**Book 1・2に戻って文法解説動画を見たり、Dクイズで理解を確かめたり**することができます。

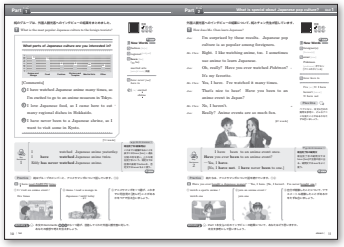
特色2 単元末活動重視の教科書 （本資料p.7参照）

教科書本文とパート末の活動Activity、単元末ゴールの姿Unit Activityをより強固につなげ、思考力・判断力・表現力を自然な流れで積み上げます。

Unitの学習の流れ

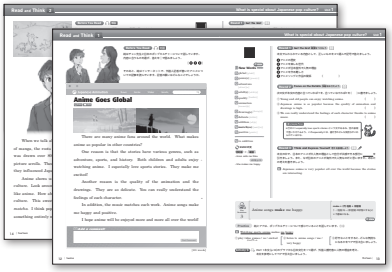
扉

Unitタイトルを単元を貫く「問い」としています。**Previewで**、これから学ぶ表現は、どんな目的・場面・状況で使うかを想像します。



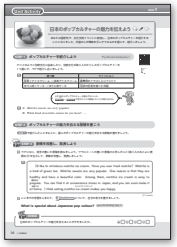
Part 1・2

Previewから続く場面。少ない分量の本文でUnitの重要な文法を学びます。



Read and Think 1・2

まとまった分量の文章を読む力や考える力、表現する力を身につけます。



Unit Activity

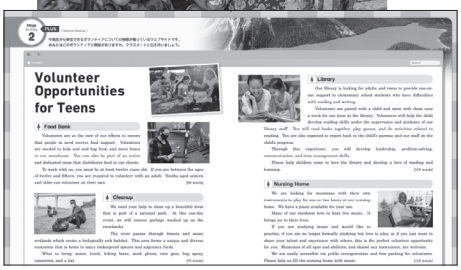
Unitで学習したことを使って、目的・場面・状況を踏まえて発信します。

特色3 ダイバーシティ重視の教科書

英語の授業で取り扱いたいインクルーシブ教育をめざしました。

- 取り扱う題材や登場人物の出身地などは、未来の世界を担う中学生たちに、言語活動を通して得た学びによって、**多様性が尊重される社会**を自らの手で築いてほしいという願いを込めて選定しました。
- Unit Activityを積み上げて年3回の大きなパフォーマンス評価に臨む場として設けたStage Activityでは、多様な人種が暮らす**カナダの中学生からのビデオレター**やVancouver Diversity Channelなどのリアルな**体験型動画**で、**国際交流の擬似体験**ができます。
- **ダイバーシティメモ**で多様性への気づきを促します。

Malala Yousafzai: Education First



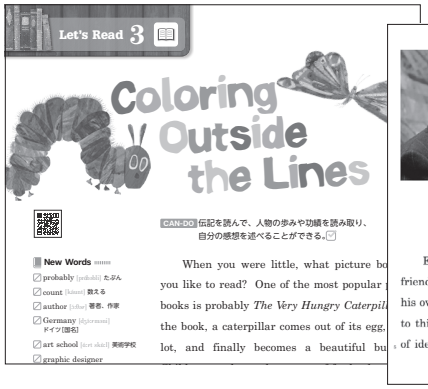
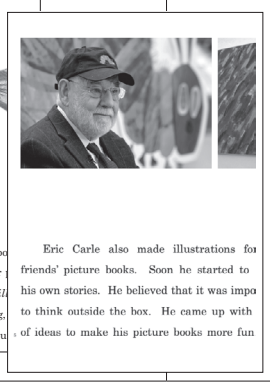
Vancouver Diversity Channel

2 対照表

図書の構成・内容	留意点	具体例
全体	❶基礎・基本となる文や文構造、文法を系統的に学ぶと同時に、それらを単なる知識としてではなく、**目的・場面・状況に合わせて活用できるコミュニケーションの力**として育成することをめざしています。（第１号） ❷各Unitで取り上げる題材を通して、異なる文化の発想や考え方を知り、**広い視野**でものごとをとらえる力や**相手の立場**に立って理解しようとする態度を育成します。（第１号） ❸生徒の心情に訴える題材を取り上げ、**思いやりや生命の尊さ、郷土を愛する心、国際理解などの道徳心**を培いつつ、昨今の世界情勢を踏まえた平和教育の題材を取り扱っています。（第１号） ❹学年３回の節目で行うStage Activityや巻末には、生徒の興味関心に結びついた語彙集や資料があり、**豊かな自己表現**を促します。（第１号） ❺Real Life Englishでは、言語の使用場面や働きを踏まえたコミュニケーション活動を行い、**実生活に生かす**ことができます。（第２号） ❻Unitの中に働く人の姿を織り込み、**働くことに関する意識の醸成**をめざしています。（第２号） ❼学校での活動や他教科の学習に配慮して教材を配置しています。生徒は、**自らの学校生活と重ねて学習**が進められます。（第２号） ❽対話的な学習を促すために、**ペアやグループ**で取り組む活動を豊富に用意し、**相手意識を持ってコミュニケーション**を行ったり、相手の立場に立って考えたり、協力し合ったりする態度を育みます。また対話の方法として、主張と理由を伝え合う**ミニディベート**も取り扱っています。（第３号） ❾イラストや写真を含め、ジェンダーにとらわれることなく**男女が協力**して生きる様子を取り上げています。また、誰もが住みやすい社会をめざす取り組みを題材として扱っています。（第３号） ❿自然を大切にしたり、**環境の保全**を強く意識したりするような題材を取り上げています。（第４号） ⓫世界に日本の良さを発信しようとする生徒を育成するために、**伝統や文化、自然**に関する題材を取り上げています。（第５号） ⓬**国語との関連**を図り、日本語との関連から、英語について学べるような資料を掲載し、**言葉への豊かな感性と情操**を育成します。（第５号） ⓭グローバル社会で生きることを意識し、海外の生活や文化を理解した上で、尊重する心を育み、**国際社会の平和と発展に寄与**する態度を養います。（第５号）	❶p.9 Unit 1「What is special about Japanese pop culture?」のPreview、p.10、11、13、15のActivity 1～4、p.16のUnit Activity ❷pp.51～58 Unit 4「How can we help each other in a disaster?」 日本国内の国際化にも目を向け、災害時の外国人支援を扱います。 pp.77～84 Unit 6「What does it mean to be a global citizen?」 ❸pp.46～49　Let's　Read 1「A Mother's Lullaby」 pp.61～68 Unit 5「What makes a good leader?」 ❹pp.42～45　Stage Activity 1「Discover Japan」 ❺p.17 Real Life English Scene 1「ディスカッション」 p.27 Real Life English Scene 2「講演」 p.59 Real Life English Scene 4「町中での手助け―申し出る―」 ❻pp.19～26 Unit 2「How do you choose your clothes?」 ❼pp.72～75　Stage Activity 2「My Activity Report」 ❽pp.9～16 Unit 1「What is special about Japanese pop culture?」 pp.88～91　Stage Activity 3「Let's Have a Mini Debate」 ❾pp.77～84 Unit 6「What does it mean to be a global citizen?」 ❿pp.31～38 Unit 3「How can we save animals?」 pp.92～95 Let's Read 2「Power Your Future」 ⓫pp.9～16 Unit 1「What is special about Japanese pop culture?」、pp.42～45 Stage Activity 1「Discover Japan」 ⓬p.18 Learning Japanese in English ⓭pp.77～84 Unit 6「What does it mean to be a global citizen?」 pp.102～104　Further Reading「Malala Yousafzai: Education First」

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

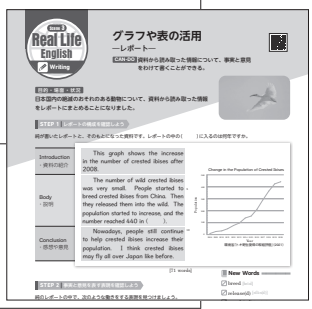
（1）全ての生徒が使いやすい紙面への配慮

観点	留意点	具体例
1 **特別支援教育への配慮**	❶本文やNew Words、Key Sentencesなど、紙面上の要素のデザインや配置を統一しているので、**学習の流れを見通す**ことができ、安心して学習に取り組むことができます。 ❷二次元コードをパートごとに配し、音声学習に取り組みやすくしています。	❶❷ pp.9～16 Unit 1「What is special about Japanese pop culture?」
2 **ユニバーサルデザインへの取り組み**	**Unit、Stage Activity**の２つのメイン単元があり、それに付随してより実践的な英語力をつけるための**Real Life English**や**Let's Read**も配置されています。Unit内の単元末活動（Unit Activity）を積み重ねることで、学期末のStage Activityへと到達できます。このように**構成を規則的にし、学習のユニバーサルデザイン化**を図っています。   	pp.2～3　目次「学習の見通しを立てよう」 p.39 Real Life English Scene 3「グラフや表の活用―レポート―」 pp.96～100 Let's Read 3「Coloring Outside the Lines」

3造本上の工夫	❶**GIGAスクール構想に対応**して、視聴覚教材での学びが適しているものは紙面からデジタルコンテンツに移し、A4判の紙面には余白を残して、生徒が手書きでの書き込みができるようにしています。また、指導時数も全体で11時間削減し、140時間の7割で指導を終えて、残りの3割は端末を使った個別最適な学びに充てることを前提に、過度な負担を極力おさえるように編修しています。 ❷ページ数を抑えた上、**最大限に軽量化された、薄くても裏写りしにくい用紙**を使用しています。 ❸**特殊な糊を使って製本**し、ページが大きく開くため、外側に折り返して手に持っても、ページがはがれず、堅牢なつくりです。 ❹印刷は鮮明で、豊富な写真やイラストを効果的に配置しています。

（2）今日的な課題への取り組み

観点	留意点	具体例
1防災・安全	３年間を通して関連する教材を扱うなどして、防災や安全の視点を重視しています。	pp.51～58 Unit 4「How can we help each other in a disaster?」
2環境・資源・エネルギー	Unitでは自然や文化を守る取り組みを、Let's Readでは今日我々が直面する**環境問題**を、テーマとして大きく扱っています。	pp.92～95 Let's Read 2「Power Your Future」
3多様性・人権への配慮	題材や人物の出身国は、英語圏や非英語圏、日本とできるだけ**多様な世界の国々からステレオタイプを避けて設定**しています。それぞれの国の良さや違いを感じたり、言語や文化に対する理解を深めたりできるようにしています。また**男女のバランス**にも配慮しています。	扱う国や人物：インド、南アフリカ共和国（Unit 5）、アフガニスタン（Unit 6）、アゼルバイジャン（Let's Read 2）、中国系カナダ人のチェン先生ほか
4伝統・文化	**日本の伝統・文化の良さを海外に発信**し、**新たな視点から自国への理解**を深めます。	p.18 Learning Japanese in English pp.42～45 Stage Activity 1「Discover Japan」
5SDGs・道徳教育との関連	❶多様な国々を取り上げることで、世界へ目を向け、視野を広げ、**平和・国際貢献の精神**を育てることができるようにしています。 ❷ペアやグループの学習、発表するときなど、**相手意識**を持って伝え合い、伝わる喜びを感じられるように配慮しています。	❶pp.77～84 Unit 6「What does it mean to be a global citizen?」 ❷pp.88～91 Stage Activity 3「Let's Have a Mini Debate」
6小中高の連携	❶小中高の連携を図るため、学習指導要領をもとにした**東京書籍版CAN-DOリスト**を作成し、それに則って学習目標を設定しています。 ❷３年生では、高等学校の学習へ円滑につなぐため、**段階的なリーディングの語数増と課題設定**に加え、**文章構成**などを解説しています。巻末には**発展的な語彙集**もあります。	❶巻末CAN-DOリスト ❷p.5 学び方コーナー３「パラグラフ・ライティング」pp.141～144 Word Room
7言語力の育成	❶レポートでの事実の示し方、ディベートでの意見の述べ方など、国語における留意点と共通性を持たせ、連携を図っています。 ❷**非連続型テキストの読解力の育成**にも配慮し、グラフの読み取りなどを取り上げています。	❶❷p.10 Unit 1「What is special about Japanese pop culture?」 p.39 Real Life English Scene 3「グラフや表の活用―レポート―」



（3）学校教育を取り巻く諸課題への取り組み

観点	留意点	具体例
1先生がたの働き方改革への貢献	❶**１ページあたり１時間を基本**とし、時間配当や年間指導計画を把握しやすい構成にしています。 ❷各Unitのパート構成を同じにしているため、**学習の流れを見通し**やすくなっています。 ❸Unitでは扉の写真を使ってオーラルイントロを行うことができ、単元の導入から英語を使えるため、全体として**「英語で授業」**がしやすい流れを作っています。 ❹Unitのタイトルでもあるの発問は、Unitを通して考え続ける内容となっており、**題材を通して英語の「見方・考え方」を身につけ**、学びを深められるように配慮しています。 ❺活動で発話・対話したり、書いたりする際の**例文を紙とデジタルに示し**、指導の際にも生徒自身が学習する際にも活用できます。 ❻Stage Activityでは、カナダの中学生からのビデオレターでやり取りする設定で、写真や動画で**生徒の活動の姿が見える**ようにしており、**国際交流の疑似体験**ができるようにしています。	❶pp.2～3 目次「学習の見通しを立てよう」 ❷❸❹ pp. 9～16 Unit 1「What is special about Japanese pop culture?」 ❺❻pp.72～75 Stage Activity 2「My Activity Report」
2カリキュラム・マネジメント・地域連携	❶他教科と特に関連を図ったページにはマーク理科を示し、該当の内容を多面的に、より深く学べるように配慮しています。 ❷デジタルコンテンツを活用しながら個別最適な学習ができるように、紙面の文字量を調整し、生徒が自分自身の学習活動に能動的に関わりたくなる工夫を随所に施しています。デジタルマップは地域での方針に沿って伸縮自在に**複式学級**や**少人数授業**、**家庭学習**に活用できる読み物教材です。 ▲他教科関連マーク	❶p.40「Learning Science in English」 p.86「Learning Social Studies in English」 ❷デジタルマップ（多読用ご当地リーディング）
3GIGAスクール構想の推進（個別最適な学び・協働的な学びのために）	❶紙面に付した二次元コードを機器で読み取ることで、**本文と語句欄の音声**（スピード変更、スラッシュ読み、カラオケ機能、マスク機能付き）**や文法解説動画などを視聴できる**ため、学校でも家庭でも音声や動画を活用した学習ができます。 ❷Unitの最初に配置しているPreviewには、二次元コードからアニメーションと音声を視聴できるので、そのUnitで扱っている文法項目を使う「目的・場面・状況」を予想することができ、**意味のある文法学習の導入**となります。 ❸**制度化された学習者用デジタル教科書**の使用によって、必要な部分を大きくして見たり、音声へのアクセスが簡単にできたり、日本語訳を活用した学習ができたりするため、英語学習の最適な学びの環境を全ての中学生に保障します。	❶p.1「デジタルコンテンツを学習に活用しよう！」 ❷p.9 Unit 1のPreview

編　修　趣　意　書

（学習指導要領との対照表、配合授業時間数表）

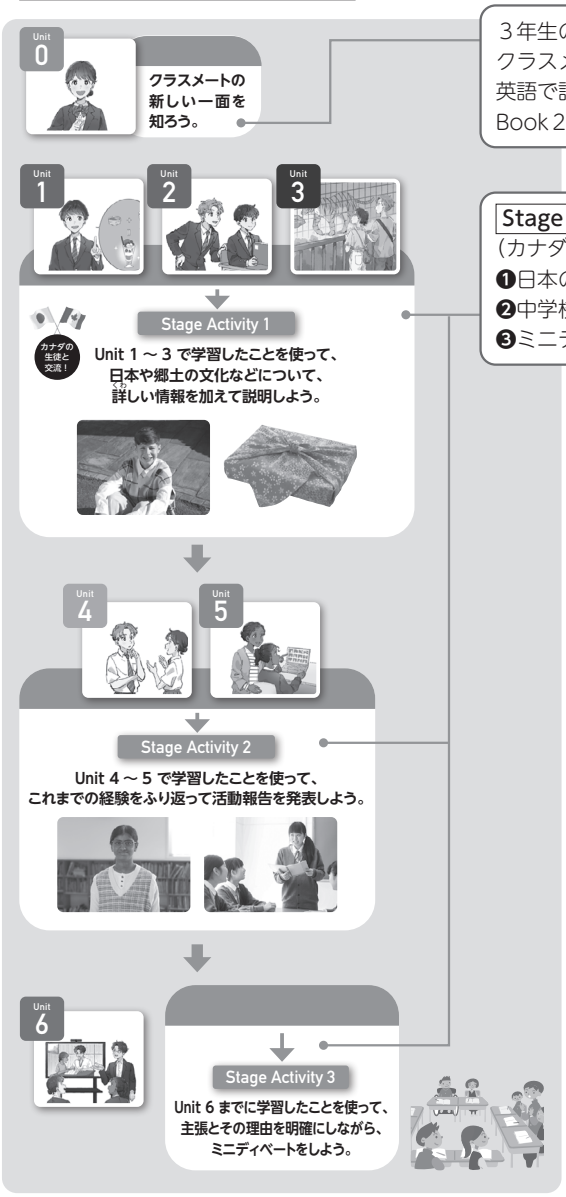
受理番号	学　校	教　科	種　目	学　年
105-68	中学校	外国語	英語	第３学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教　科　書　名		
２東書	英語002-92	NEW HORIZON English Course 3		

1　編修上特に意を用いた点や特色

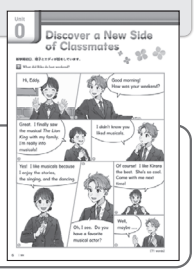
中学３年生の学びから、
誰一人取り残さない英語教育 をめざした教科書です。
令和の日本型学校教育を実現するために、この教科書には次のような工夫があります。

1　Activityを積み上げて単元末のゴールの姿を評価

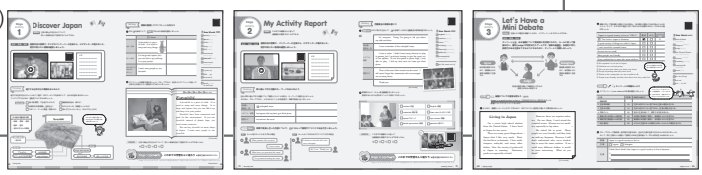
年間指導計画（縦軸）の流れ



３年生の新学期。中学校生活も３年目に入り
クラスメートのことはほぼ知っているつもりだったけれど
英語で話してみてあらためて知る意外な一面も！
Book２の表現を振り返ります。



Stage Activity　**年間を大きな3つのテーマでまとめる、バックワードデザインでタスクを構成**
（カナダとの交流を擬似体験）
❶日本の郷土文化の紹介
❷中学校生活のレポート
❸ミニディベート



― 活動を積み上げる手順がわかり、学習が見通せる全体構成 ―

この教科書は、年間指導計画（縦軸・左図）と単元のまとまり（横軸本資料p.7）とが、有機的に規則性・系統性を持って設計されています。**この構造のもとで、学習の流れはパターン化され、目標**（入口）と**評価**（出口）の場所が明らかになるため、**CAN-DOリストに沿った**わかりやすい手順で、確実に力をつけることができます。各Unitの流れ（横軸）については本資料次ページ参照。

［５領域をバランスよく育成］

単元	パート	聞く	読む	やり取り	発表	書く	
Unit	Preview	◎					単元導入のためのリスニング
	Part 1・2	○	◎	◎	○	○	本文と、場面のある代入練習
	Before You Read／Read and Think 1・2	○	◎	○	○	○	Partの本文を受けて、読み物（Read and Think）を読むに至る目的・場面・状況を導くリスニングと本文
	Unit Activity	○	○	○	◎	◎	単元末活動
Stage Activity		○	○	◎	◎	◎	4技能統合、定番テーマでのまとめ
Real Life English／Let's Read		◎	◎	◎		◎	実生活密着の英会話など／読書
Grammar for Communication		○	○	○		○	文法の整理

英語で伝え合う生徒の「体験」を積み上げる教科書です。

音声で「導入」、重要表現で「展開」、単元末活動で「まとめ」、見通せる単元配列で目標と評価に対応します

単元のまとまり（横軸）の流れ

○語彙・言語の使用場面と働き・題材を、各学年テーマのもとで難易度の低いものから徐々に高いものへと系統的に繰り返し練習できるので、生徒は学びが積み上がる実感を持てます。

○技能別、あるいは４技能を適宜統合・総合する活動をそれぞれのパートで繰り返し行うことで確実に定着を図ることができ、単元末活動のUnit Activityでついた力を確かめられます。

○単元末活動で使いたい表現は本文に立ち返ってヒントを探すことができるように、下図のActivity1～4・Unit Activity・Stage Activityのタスクと本文を設定しています。

目標の明示

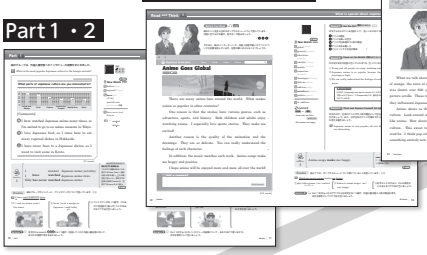
GOAL

日本のポップカルチャーの魅力について、経験や感想と共に伝えることができる。

Unit Activity (▶p.16)「日本のポップカルチャーの魅力を伝えよう」

扉

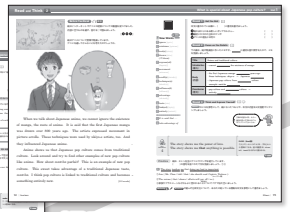
[導入：p.9]



Part１・２

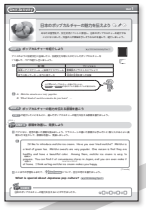
Read and Think １

[展開❶：Part １ p.10]
[展開❷：Part ２ p.11]



Read and Think ２

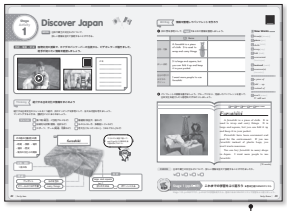
[展開❸：Read and Think １・２ pp.12～15]



GOAL CHECK

Unit Activity

[まとめ❶：Unit Activity p.16]



Stage Activity

[まとめ❷：Stage Activity pp.42～43]

パフォーマンス評価

Stage Activity=Discover Japan

積み上げ6：生徒の姿を評価

日本や郷土の文化などについて、カナダの中学生とのビデオレターのやり取りの擬似体験を通して伝える。

Unit Activity

積み上げ5：生徒の姿を評価

Activity １～４を生かして、日本のポップカルチャーの魅力を伝える。

Activity 3･4

積み上げ3・4

日本文化を１つ選び、外国人観光客に人気の理由を伝え合ったり知っている情報を書いたりする。

Activity 2

積み上げ２

本文のインタビュー結果について、自分がどう思うか述べる。

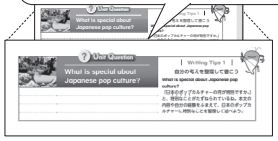
Activity 1

積み上げ１

本文に書かれている外国人観光客のコメントに対して、自分の感想や考えを述べる。

巻末の資料編のpp.135～140 Unit Activity Plusには表現のヒントとなる例文や資料があります。
コードから音声も聞けます。

単元を貫く Unit Question に対応した書き込みスペースがあります。



2 自己表現を助ける資料をデジタルでも！

― 伝えたいことを工夫して「自分の言葉」にできる表現集・用例辞典 ―

○デジタル用例辞典は教科書本文を用例のモデルとして呼び出せる機能です。生徒は３学年分の用例を見ることができ、収録語数は約1,000語、収録表現数は約300種類です。

3 即興力を育成するための様々な仕掛け

― 教科書を学ぶのではなく、教科書で学ぶために ―

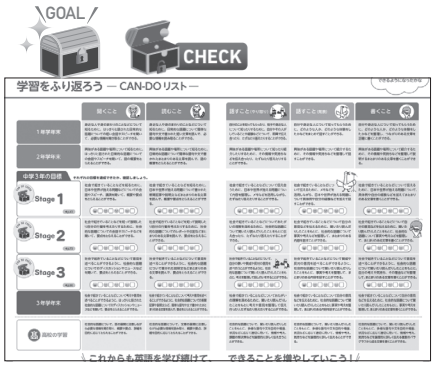
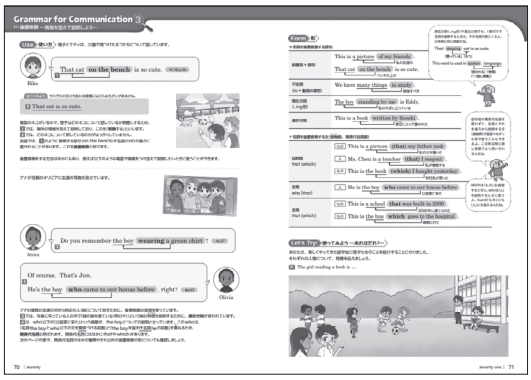
○巻末のSmall Talkは、帯時間や休み時間に、気軽に英語が生徒の口から飛び出すような教室をイメージして設けたページです。自由に、楽しく、即興で話せるための練習用コンテンツもデジタルに用意しました。教科書本文に絡めて、中学生が話したくなるようなテーマで表現を特集しています。

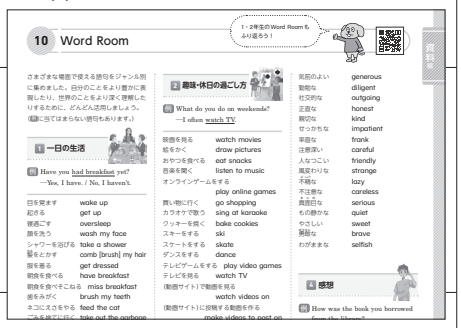
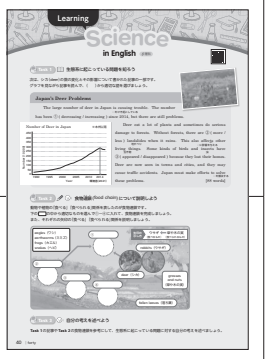
[p.145]

[pp.148～149]

書き込みスペースは学年が進むにつれて増えていきます。

観点別特色の一覧

観点	具体例
1 **教育基本法の遵守**	●教科書の内容全体を通して、グローバル時代に生きる全ての中学生に求められるコミュニケーション能力を育みます。**英語を学ぶことで身につく見方・考え方**が国や文化の違いを越えて人と人を結ぶ豊かなコミュニケーションをもたらす可能性に気づき、グローバルな視点での発言や行動に結びつけていくことをめざしています。（全体） ●国際社会の一員として、**自国の伝統・文化を尊重**するとともに、他国を尊重し、**国際社会の平和と発展に寄与する態度**を養うようにしています。（pp.9～16 Unit 1、pp.42～45 Stage Activity 1など） ●教育基本法の第２条を遵守しています。（本資料p.4参照）
2 **学習指導要領の遵守**	▶「目的や場面、状況」についての意識を促すアイコン 目的・場面・状況 ●中学校学習指導要領（外国語科）に示された目標に則り、コミュニケーション能力の育成をめざし、その基礎となる**言語材料の知識と技能**を基盤とし、生徒が自分で**思考し、判断**したことを適切に**表現**できることを**深い学び**ととらえ、順を追った活動を組み込んでいます。（全体） ●文法はコミュニケーションを支えるものとして、どのような**目的や場面、状況**で使われるかを生徒が理解することを重視しています。（Unit 1～6　Previewなど） ●英語で意思や情報を伝え合う**対話的な活動や協働して問題解決にあたる活動**を充実させ、対話的な学習を促しています。さらに、話されたり書かれたりしたことの意図や背景を推測したり、自分の考えを深めてそれを表現につなげたりするようなコミュニケーション活動を充実させています。（Unit 1～6　Unit Activityなど）
3 **内容・系統**	●３年間の学びを見通したうえで、中学３年生での到達点（ゴール）を示しているので、豊富な言語活動を通して明確な**到達点に向かって学習を進める**ことができます。（pp.２～３「学習の見通しを立てよう」、巻末口絵 「学習をふり返ろう―CAN-DOリスト―」） ●全ての単元の冒頭に必ず到達点（ゴール）を単元の目標とセットで示しています。また、Unitの単元末活動として配置されたUnit Activityの最後にも同じ文で、振り返りや自己評価を行うチェック欄をアイコンとともに載せています。 ●生徒が学びたくなる題材、やってみたくなる活動を豊富に取り上げ、**積極的に英語を使う授業の場づくり**に資するようにしています。 ●Unitの各パートの最後にくるActivityを積み上げ、その**各パートで積み上げた「自分の言葉」を生かして、単元末活動のUnit Activityでまとめます**。さらには、**年３回設定されている大きなテーマを扱うStage Activityに向かって、活動を系統的に積み上げていく構成**です。 Activity（Unit内の各パート末）⇒（積み上げて）Unit Activity（単元末）⇒（積み上げて、複数のUnitを統合・総合して）Stage Activity（年３回）という順で、全体を通してStage Activityに向けて活動を系統的に積み上げています。いずれも**パフォーマンス評価**を行うことができます。（本資料p.7参照） ●Grammar for CommunicationではUnitで扱った複数の言語材料を再度、目的･場面・状況を重視して整理し直して、Use（使い方）→ Form（形）→ Let's Try!（使ってみよう）の流れで適切に使えるように練習します。  
4 **組織・配列・分量（スパイラル・学年間接続など）**	◆組織・配列 ●全てのUnitは、既習事項を**スパイラルに学習**できる構成になっています。Unit 0は２年生の学習を引き継ぎ、Unit 1～6では紙面の二次元コードから３年生の初出の文法を扱った文法解説動画を見たり、デジタルクイズで理解度を確認したりすることができます。１・２年生のコンテンツに戻ってつまずきポイントを理解し直すこともできます。どのUnitも、音から導入して文字に向かう順序で４技能５領域全てをバランスよく扱います。（本資料pp.6～7参照） ●「学び方コーナー」では英語学習のポイントやコツを系統的に取り上げ、**生涯英語を学ぶ主体的な学習態度を育成**することをめざします。3年生では､単語の仕組み（接頭語・接尾語）やパラグラフ・ライティングなどを扱います。(pp.4～5) ◆分量 ●小学校英語が教科化されたことを重視し、また実社会で目にする英文に触れられるように、教科書で扱う分量を段階的に増やしています。同時に、高等学校への接続を考え、入試で扱われる分量を想定して英文の量や活動の種類についても充実させています。（全体）

観点	具体例
4 組織・配列・分量（スパイラル・学年間接続など）	●語彙は、小中学校の教科書やCEFR-Jの語彙リストのA1レベルを中心に選定しています。小学校で学習したとみなされる語を**630語**と設定し、それに中学校の新出語**約1,700語**を加えた**約2,300語**を扱っています。（pp.105～126 Word Listまたは本資料下図参照） ●上記約2,300語のうち小学校既習語から**392**語、中学校新出語から**408**語の合計**800**語を**「発信まで使えるようになりたい語」と設定**し、Word Listで太字で示しています。この800語は、全ての生徒の**発信語彙**として繰り返し提示して定着できるようにしています。（下図★印参照） ●中学校新出の1,700語は、教科書本文だけでなく本文以外の部分で扱う語も含めることで、生徒の負担を軽減しています。（資料編Word Roomなど） **小・中学校で扱う語 約2,300語**　※★は「発信まで使えるようになりたい語」（合計800語） 小学校の既習語 **630語**（★392語） 中学校の新出語 **約1,700語**（★408語）　本文 約1,200語　本文以外 約500語
5 基礎的・基本的な知識、コミュニケーションの４技能５領域の定着の配慮	●CAN-DOリストに基づき、３学年を通して４技能５領域の技能が確実に育成できるようにバランスよく教材を配置しています。（本資料p.6参照） ●「Unit」・「Stage Activity」・「Real Life EnglishとLet's Read」の３つの主要単元で、**知識・技能の習得と活用を繰り返しながら思考力・判断力・表現力等の育成**をめざします。いずれの単元でも、言語を使用する**目的・場面・状況を意識して活動に取り組める**ような仕組みにしています。（本資料p.6参照）
6 資質・能力の対応	●変化の激しいグローバルな社会で生きていくための資質・能力を重視し、英語を通じて**異文化理解**を深めたり、**多様性**を認めたりするとともに、他者への共感や思いやりを持って**共生社会の実現**をめざす態度を育成します。（全体） ●各学年にテーマを設け、題材で扱う範囲を身近な話題から社会的・世界的な話題へと段階的に重心を移しています。３年生のテーマは、「英語を使って共に生きよう」とし、１・２年生の学びを生かして引き続き英語を使いながら、**英語ならではの視点で世界の諸問題について考えを深め**、自分の意見や考えを世界に向けて表現しながら**世界と深くかかわる行動ができる**ようになってほしいという願いを込めています。（全体） ●技能と文法を車の両輪のように考え、学習段階に合わせた活動を扱っています。活動を通して、使える英語が身につくようにしています。（本一覧表p.8の3参照）
7 学習方法・授業展開への配慮（アクティブ・ラーニング、ALTとのTeam Teachingなど）	●各紙面において学習要素を定位置に置き、特別支援教育への配慮をしています。Unitでは本文下に基本文（Key Sentences）と練習（Practice）、本文横に語句欄（New Words）を配置し、関連する活動は見開きの右側に配置しています。語句欄の上にある二次元コードからは、本文と語句欄の音声のほか文法解説動画やデジタルクイズなどにアクセスできます。（p.10 Unit 1など） ●**英語で授業**を行うことに配慮し、ペアやグループ活動を充実させたり、帯活動で継続的に行って即興的なやり取りの力をつけたりするためのSmall Talkのページを設けたりしています。（pp.145～149） また、**ALTとのTeam Teachingを重視して**、ALTと伝え合いたくなる話題を多く取り扱い、教師用指導書には発問の英訳を掲載します。 
8 学習の習慣化への取り組み（規律・態度など）	●資料編のWord Roomでは、**紙とデジタルの両方に語彙をジャンル別に豊富に示し**、自分が伝えたいことを表現するときに使えるようにしています。（pp.141～144 Word Room） ●**授業以外の場でも英語の音声や動画を視聴できる**よう、二次元コードを付しています。（p.31 Unit 3など）二次元コードを利用できない場合は、p.1に示すURLからアクセスすることができます。教師用指導書付属のメディアにも音声を収録します。
9 言語に関する配慮	●言語力育成への視点から、**国語との関連**を図っています。浮世絵、歌舞伎などの伝統文化や柔道などのスポーツなど、日本文化が海外の人に愛され、受け入れられる中、日本語が英語の辞書に掲載されていることについて考える活動を取り入れています。（p.18 Learning Japanese in English） ●**英語の論理に合った文章構成**の例や、事実と意見を分けて書くレポートの例、相手の意見を受けて自分の考えを効率的に伝えるディベートの例などを示しています。（p.5 学び方コーナー3、p.39 Real Life English Scene 3、pp.88～91 Stage Activity 3など） 
10 他教科との関連	●CLIL（内容言語統合型学習）への対応として**他教科での学習を生かす**もの、現代的な諸課題に対応するものなどを扱い、生徒の理解を深めるようにしています。（全体） ●「資料の読み取り」の力を育成するため、**図表や非連続型テキスト**を含む教材を扱っています。（p.39 Real Life English Scene 3、p.40 Learning Science in English、pp.92～95 Let's Read 2など）
11 造本上の工夫（学習への効果）	●指導時間を配当するページは増やさず、**生徒が発信するためのヒントを探し出す資料**を紙とデジタルで手厚く用意しました。 ●A4判を採用し、デジタルでは対応できない**手書きでの書き込みスペース**を保障しました。（pp.135～140 資料編Unit Activity Plus、p.149 Small Talk）また、判型を大きくすることで写真等のレイアウトやデザインをダイナミックに、かつ見やすくしました。 ●ページ数を抑えた上、最大限に軽量化された薄くても裏写りしにくい用紙を使用しています。

2 対照表

3年	図書の構成・内容・主な言語材料		学習指導要領の内容		該当箇所ページ	配当時数
			2 内容	3 指導計画の作成と内容の取扱い*		
Unit 0	Discover a New Side of Classmates クラスメートの新しい一面	2年生の学習事項	(1)、(2) (3) ①イウエオカ、②	(2) エカ	6~7	2
Unit 1	What is special about Japanese pop culture? 日本のポップカルチャー	現在完了形(経験)/ make+(代)名詞+形容詞 / show [tell] + (代)名詞 + that節	(1)、(2)、 (3) ①イウエオカ、②	(2) エカ (3) イ (ア)(イ) (ウ)	9~16	8
Unit 2	How do you choose your clothes? エシカルファッション	現在完了形(完了・継続)/ 現在完了進行形			19~26	8
Unit 3	How can we save animals? 絶滅のおそれのある動物たち	It is ... (for (人)) + to / want + (人) + to / let [help]+(人) +動詞の原形			31~38	8
Unit 4	How can we help each other in a disaster? 東日本大震災のドキュメンタリー	間接疑問文 /主語+動詞+間接目的語+whatなどで始まる節 / 現在分詞 / 過去分詞			51~58	8
Unit 5	What makes a good leader? ガンディーの功績と受けつがれる理念	名詞を修飾する文 / 関係代名詞who, that [which](主格、目的格)			61~68	8
Unit 6	What does it mean to be a global citizen? 国をこえて助け合う大切さ	仮定法(I wish I could [had] ... / If I were [had] ..., I would ~.) / 主語を説明する関係代名詞			77~84	8
Stage Activity	1. Discover Japan		(1) ウ、 (2)、(3) ①イウエオカ	(2) カ	42~45	4
	2. My Activity Report				72~75	4
	3. Let's Have a Mini Debate				88~91	4
Real Life English	1. ディスカッション、2. 講演、3. グラフや表の活用、 4. 町中での手助け、5. 記事への意見、 6. テレビの国際ニュース		(1) アウ、 (3) ①イウエオカ、②	(2) イ	17、27、39、59、69、85	各1
Let's Read	1. A Mother's Lullaby		(1) ウ、 (2)、(3) ①ウエオ	(3) イ (ア)(イ) (ウ)	46~49	4
	2. Power Your Future				92~95	4
	3. Coloring Outside the Lines				96~100	4
Grammar for Communication	1. 現在完了形と現在完了進行形、2. 不定詞、 3. 後置修飾、4. 仮定法		(1) エ	(2) エ	28~29、41、70~71、87	各1
Learning Japanese in English Learning Science in English Learning Art in English Learning Social Studies in English			(3) ①イウエオカ	(1) オ	18 40 60 86	各1
						合計88

*学習指導要領の内容「3　指導計画の作成と内容の取扱い」について、特記のない項目は図書の構成全体について扱う。

編　修　趣　意　書

（発展的な学習内容の記述）

受理番号	学　校	教　科	種　目	学　年
105-68	中学校	外国語	英語	第３学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教　科　書　名		
２東書	英語002-92	NEW HORIZON English Course 3		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに関する事項	ページ数
104	Further Reading Malala Yousafzai: Education First	2	第２　２（１）エ ※上記項目において関係副詞は扱うこととされていませんが、原文のまま掲載しました。	0.25
			合計	0.25

（「類型」欄の分類について）
１…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等）以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
２…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容